



JSQC ニュース

No.232

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03(5378)1506 FAX.03(5378)1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス「医療制度改革のゆくえ 医療サービスの質の向上と効率化」
- 2-私の提言「情報発信者集団育成のための方策」
- 2-ルポルタージュ 第274回(中部支部第64回)事業所見学会ルポ
- 3-各賞表彰 / 9月の入会者紹介
- 4-第31年度役員体制決まる / 役割分担 / 各賞表彰 / デミング賞 / 行事案内

「医療制度改革のゆくえ医療サービスの質の向上と効率化」

練馬総合病院 理事長 飯田修平

平成13年9月19日、東京都芝のABCホールにおいて、第7回医療経済研究機構シンポジウム「医療制度改革のゆくえ 医療サービスの質の向上と効率化」が行われた(NHK教育テレビ放映)

筆者は、総合的質経営の重要性を強調した。その発言要旨を紹介する。

I 患者の視点に立った医療サービスとは何か

患者中心も、医療者中心もない。同じパートナーとして考えている。

医療不信が強いが、患者も医療側も、立て前を言っている限り解決しない。相互の考え方や状況を伝え、相互に分かり合うことが必要である。東京都病院協会倫理委員会(筆者が委員長)で医療側からの意思表示として「私たちの病院の目標」を制定し公表した。倫理綱領・行動指針である。当院の倫理委員会が中心となって検討した。

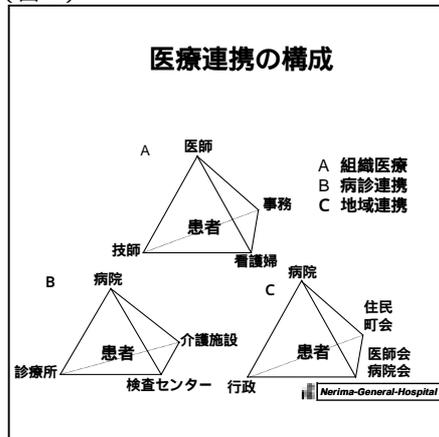
II 医療提供体制のあり方

医療提供体制の要点は医療連携である。医療連携とは医療の継続性の確保を言う。医療連携が必要な理由は、専門分化により、機能分担が進んだからである。したがって、チーム医療が必

要である。その実現には、標準化と情報の共有が必要である

医療提供体制を論ずるに当たり、どの範囲に関して論ずるのかを明らかにしなければ混乱する。範囲を以下の3段階に分けて考える(図1)。A:組織

(図1)



としての病院内の連携、すなわち、チーム医療である。

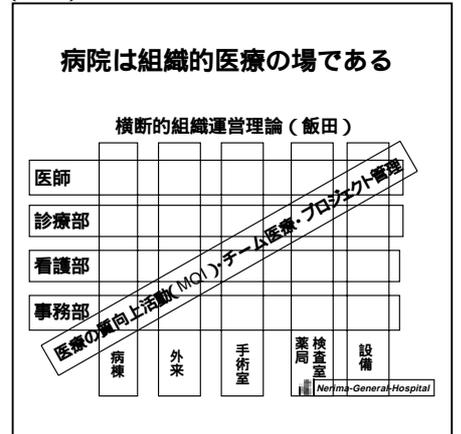
B: 地域の医療機関の連携、すなわち、病病連携・病診連携である。

C: 地域の連携、すなわち、生活・行政等の社会活動としてである。

医療サービスの効率化病院には、多くの専門職種、多くの部署がある。縦割り、横割りの壁が厚い。標準化と情報の共有が困難である。したがって、従来の組織構築を超えた、縦横斜めの3次元の連携が必要である。これを横断

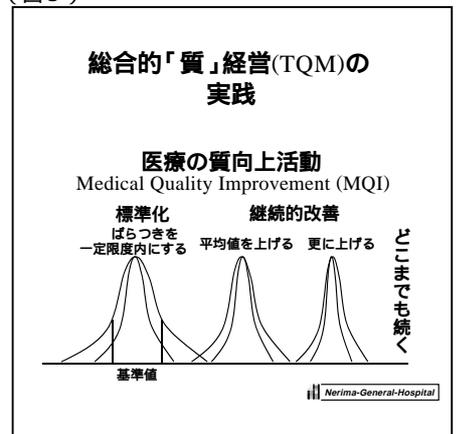
的組織運営理論と呼ぶ(図2)。チーム医療である。

(図2)



これを達成するには、継続的質向上が必要である(図3)。産業界の品質管

(図3)



理の経験を学んで、医療の質向上活動(MQI: Medical Quality Improvement)をおこなっている。総合的質経営(Total Quality Management: TQM)である。立て前ではなく、本音で経営を考えたときに、到達する段階である。

私の提言

情報発信者集団育成のための方策

中央大学教授 中条武志



本学会は今年で創立30周年を迎え、会員数も3,000名の大台を回復した。しかし、品質管理に関する学術の研究奨励を目的とする団体としてその機能を十分果たしていると言えるであろうか。例えば、機関誌「品質」の論文の投稿数は平均すると約20件/年であり、会員数約2,000名の日本経営工学会の論文掲載数約60件/年に比較すると1/3にも満たない。日本経営工学会をベンチマークに実質の会員数を計算すると600名にも満たない弱小学会ということになる。

この原因は様々であろうが、学会と

して情報発信者集団を育てるための方策を十分取ってこなかったことも一因になっていると考える。以下、この点を改善するためのいくつか具体的な方策を提案してみたい。

(1) 会員名簿に各人の専門分野を記載するなど、会員の専門性を明確にし、それぞれの分野における相互交流をより活性化する工夫をする必要がある。これは、新しい会員や会員となろうと考えている人にとって特に重要となる。

(2) 研究会に関する内規を見ると「研究会は...しなければならない」という制約ばかりで「研究会は...できる」という記述は皆無である。これでは従来への慣習を打ち破るような新しい形態の研究会は生まれにくい。予算やメンバー数を含めてもっと大幅な権限を研究会

に委譲するよう内規を改定する必要がある。

(3) 研究発表会については発表者のことを考えた運営を行う必要がある。講演やチュートリアルと発表を同じ時間帯にするのは、発表者に多くの人に研究内容を聞いてもらえる場を提供する目的からすれば本末転倒である。また、研究発表会を相互啓発の場として捉えるのなら、テーマが同じだからとか聞く人の移動を少なくするためにという理由で同一組織・機関の発表を一つのセッションにするのも避けるのがよい。

(4) 現在は、品質誌や研究会の報告書などは会員外に配布・販売できない。しかし、これらは学会から外部に向けた情報発信の媒体として重要な役割を果たすべきものである。品質誌については国立情報学研究所の電子図書館を通じて会員外が利用できるようになる計画が進んでいるが、研究会の報告書等についても会員外に対して配布・販売できるしくみを考える必要がある。

(中央大学 教授 中条武志)

第274回中部
事業所見学会
ルポフタバ産業(株)
緑工場

さる9月18日(火)に第274回事業所見学会(中部支部第64回)が愛知県豊田市のフタバ産業(株)緑工場にて「客先不良「0」達成活動」をテーマに45名の方々が参加して行われた。

フタバ産業(株)は、全国一の生産量を誇るマフラーをはじめとした吸・排気系部品、ステアリング関係部品や事務機部品等幅広い分野で「よい品、より安く」を社是に、モノづくりの精神に徹した生産活動を行っている。また、安全かつクリーンで快適な自動車づくりへ寄与するため平成12年にISO14001を認証取得している。今回見学した緑工場は、昭和34年に建設され、エキゾーストマニホールなどを生産している。プレゼンテーションでは、客先からの「100%保証」の要求に応える為「不良「0」達

成活動」に取り組み、①全員品質意識の向上②工程内の問題点改善等によって78%低減という大きな成果を上げた説明があった。

会社・工場概要説明後の工場見学では、2班に分かれてプレス・溶接組立・無酸化炉中ロー付等の工程を見学し「客先流出不良低減活動」の実施事例が紹介された。どの工程においても「①初物・終物チェック②品質速報③4コマ漫画④ポスター」といった“見える化”と不具合が出たら「止める・呼ぶ・待つ」というような「不良を作らない・流さない」マインド作りが実施されていた。

やるべき事を決めたら全員参加で徹底的にやるという意志のもと、品質を工程で作り込む強い職場づくりが行われているという印象であった。

工場見学後の質疑・応答では、客先100%保証に於ける受入全数検査の効果等に関する討議が行われた。「不良低減に役立つ仕組み・マネジメントは何か」について勉強できた、大変有意義な見学会であった。

山下恭幸(ヤマハ発動機)

赤尾洋二氏が米国品質学会「特別功績金賞」受賞!



本学会名誉会員である赤尾洋二氏(朝日大学教授)は、米国品質学会(ASQ=American Society for Quality)より、特別功績金賞(DSM=Distinguished Service Medal)を受賞されました。メダルは、8月29日東京で開催された日科技連主催のASQ会長Greg Watson氏による特別セミナーおよびIAQ(国際品質学会)会合の席で、手渡され、さらに、11月4~8日、バルチモアで開催された第13回QFDシンポジウムでもWatson氏から表彰状を授与された。受賞理由は、「品質機能展開と方針管理に関する提案・発展普及活動により、世界の品質管理運動に目覚ましい貢献をなしている」。今回の受賞者は同氏のほか、以下の著名な4名でした。

Dr. Lloyd Nelson、Dr. John Hromi、John Condon、Ralph Wareham
益々のご活躍を期待すると共に、心よりお祝い申し上げます。

唐津一氏、矢野宏氏 勲三等瑞宝章を受章

唐津一氏と矢野宏氏が平成13年秋の叙勲において標記の勲章を受章されました。

東海大学教授・工学博士の唐津一先生は、わが国の品質管理の揺籃期から、研究を重ね、常に新しい知識を産業界に広く普及され、品質管理の実状を海外に明らかにされました。また、デミング賞本賞(1981)、小淵内閣「ものづくり懇談会」座長、本学会名誉会員、著書・論文多数などあります。経済界・産業界への多大な貢献が認められ今回の慶事に連なったのではないかと拝察いたします。

矢野宏氏は工業技術院計量研究所力学部長を務められ、計測関係のJIS作成に携わられておりました。

先生がたの益々のご活躍を期待すると共に、心からお祝い申し上げます。

2001年9月の入会者紹介

2001年9月22日の理事会において、下記のとおり正会員130名、準会員11名、賛助会員4社4口の入会が承認された。

(正会員)130名 橋口 照彦(日本品質保証機構) 柴田 秀昭(柴田MS研究所) 細永 岳利(KPMG審査登録機構) 三枝 次男(中国河南平原和興濾清器有限公司) 岡村 隆之(ドコモエンジニアリング) 福田 光男(トーヨーソフラン) 郡 要二(日本能率協会) 峯 孝則(サントリー) 飯田 勝巳(監査システム技術開発研究所) 石上 俊弥(豊田工機) 柘植 敏行(愛知製鋼) 山田 正人(新日本製鐵) 樋口 和宏・岩田 俊晴・宗 潤一・中斎 龍美・宮田 幸典・坂柳 守一・織田 真郎・刈谷 猛・水越 隆宏・三ツ谷 信夫(デンソー) 石原 実・鈴木 卓(デンソートリム) 山崎 恵子(内山隆司会計事務所) 戸軽 邦明(豊田紡織) 難波 勝(森永乳業) 菅野 力(NSデザイン) 角谷 宏(スミヤ精機) 藤原 庸隆(日本電気) 井上 五郎(元テクノイカタ) 金丸 正彦(横浜ゴム) 太田 洋(エスケイメンテナンス) 柴田 康秀・香月 憲彦(アイシン化工) 綾部 史郎(東京電力) 川口 証登喜(原織機製作所) 小川 隆・大野 哲・高橋 彰・松岡 寛・桑原 幸弘・須田 一夫・長坂 勝巳・加藤 義和・斉藤 嘉・半田 昇(アスモ) 片山 巖・川口 勉・宮本 紀明・木村 豊・足立 直樹・平野 春好・森下 洋司・早川 万寿男・長 義高・峠岡 雅行・小谷 哲也・大岩 洋之・村瀬 宗治(豊田自動織機) 大浦 英征(コーセル) 服部 昌幸(豊田紡織) 阿部 正晴(武山鑄造) 壺岐 裕央・松下 竜二(太田重工業) 岡崎 豊三(DAIWA INSTITUTE OF REACH LTD) 川瀬 陽象(東久) 杉山 豊隆(杉山工業) 池田 英次(竹中工務店) 新木 修(NTT-ME北陸) 若林

清一(若林中小企業診断士事務所) 石川 雅之(八洲園) 中野 忠信(高村鉄工所) 伊藤 憲昭(アルテックス) 鈴木 定省(東京工業大学) 五味 敬(アイソルヴ) 平賀 佳秋(日本環境認証機構) 宮田 宏(松下冷機) 玉木 一実(フルキャストウイズ) 坂本 修三(日本品質保証機構) 鈴木 祥代(フィガロ技研) 寺島 紘一郎(Qオフィスト) 盛田 英雄(日立計測器サービス) 水野 隆光(日通総合研究所) 小高 正義(元・北陸電話工事) 森 利徳(デット・ノルスケ・ベリタス・エーエス) 青山 元彦(湘南精機) 布村 仁志(北陸電気工業) 新里 幸子(ユキブラン) 新見 重秋(半田重工業) 松本 孝一(松下電器産業) 要藤 満夫(東琳商事) 藤嶋 勁直(松田製作所) 塚田 則夫(メディアテック) 及川 良治(ユニプレス) 門間 清秀(ティ・エフ・マネジント・コンサルティング) 山岸 宣夫(オフィス・エイティセブン) 山岸 日吉(群馬合金) 佐野 正義(コサカ精工) 小西 龍太郎(松下電子部品) 佐野 英紀(インタリスク) 江頭 泰裕(東洋通信機) 岡本 敏雄(西松建設) 松井 宗明(ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション) 田中 信嗣(旭硝子) 山口 憲一(エヌ・ケー・エクス) 天野 喜勝(天野技術士事務所) 岡本 存喜(KPMG審査登録機構) 川上 泰彦(日本品質保証機構) 田川 健一(BSIジャパン) 山田 彰一(元・東芝プラント建設) 降旗 多(元・富士電機) 竹内 誠(ビューロベリタス) 鈴木 秀真(浜松トッパン・フォームズ) 市川 豊(エクシーズ) 猪原 聡(エーエヌエーエアロテック) 粟花落 忠彦(粟花落効率経営研究所) 中村 克也(沖電気) 内山 幹夫(内山経営システム研究所) 関口 豊(フクダ) 藤田 敏幸(元・三洋電機) 関川 広(NTT-MEコンサルティング) 高村 千穂(富士ゼロックス) 佐藤 信一(日本海事検定QA) 枝 真(ボッシュオートモーティブシステム) 高松 道夫(資源環境センター) 伊藤 純嗣・二宮 正克(デッド・ノルスケ・ベリタス・エーエス) 羽山 清一(元・

間組) 星野 和夫(ボッシュ ブレーキシステム)
(準会員11名) 石田 誠一郎(中央大学) 吉田 敬・竹林 実(筑波大学) 上村 豪・山中 史彦・杉山 我路・加藤 英司・鈴木 竜彦(早稲田大学) 山下 祥平(東京都立科学技術大学) 山本 和男・田中 政孝(東京理科大学)

(賛助会員4社4口) 長尾工業(長尾 和彦) 東日本電信電話(松岡 稔) エヌ・ティ・ティ・ドコモ 資材部(鹿野 隆) 医療法人社団 カレスアライアンス(西村 昭男)

正会員: 3131名
準会員: 108名
賛助会員: 195社、219口
公共会員: 21口

教員募集

東京大学工学系研究科教官募集

公募人員: 助教または講師1名

所属: 大学院工学系研究科化学システム工学専攻「俯瞰環境工学」寄付講座

専門分野: 俯瞰環境工学

応募資格: 俯瞰環境工学分野において新たな領域の開拓と教育に意欲のある方。

着任予定日: 平成14年6月1日以降早い時期

任期: 平成19年3月31日まで

詳細: URL <http://www.chem.t.u.tokyo.ac.jp/chemsys/>

公募締切: 平成14年1月31日

問合せ先: 東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻 専攻長 飯塚悦功
電話: 03-5841-7298 FAX: 03-5841-7276
E-mail: iizukay@tqm.t.u.tokyo.ac.jp

第31年度役員体制決まる

去る10月27日に開催された第31回通常総会において、第31年度の新役員が選出承認された。

- 会長 狩野 紀昭 東京理科大学 教授
- 副会長 高橋 朗 (株)デンソー 会長
- 理事 飯塚 悦功 東京大学 教授
- 理事 天坂 格郎 青山学院大学 教授
- 理事 猪原 正守 大阪電気通信大学 教授
- 理事 圓川 隆夫 東京工業大学 教授
- 理事 太田 和宏 豊田紡織(株) 会長
- 理事 長田 洋 山梨大学 教授
- 理事 兼子 毅 武蔵工業大学 講師
- 理事 坂 康夫 日本電気(株) 部長
- 理事 澤田 善次郎 福山女子大学 教授
- 理事 司馬 正次 MIT 客員教授
- 理事 鈴木 和幸 電気通信大学 教授
- 理事 高見 昭雄 日本特殊陶業(株) 取締役
- 理事 竹下 正生 日本規格協会 部長
- 理事 田部 信雄 松下電子部品(株) 部長
- 理事 永田 靖 早稲田大学 教授
- 理事 福丸 典芳 (株)NTT-MEコンサルティング 取締役
- 理事 三田 征史 日本科学技術連盟 事務局長
- 理事 光藤 義郎 JIKI(株) 次長
- 学理事 飯田 修平 練馬総合病院 理事長
- 理事 杉山 哲朗 中部品質管理協会 専務理事
- 理事 橋本 寿朗 法政大学 教授
- 理事 松本 隆 古河電気工業(株) 主査
- 監事 大滝 厚 明治大学 教授
- 顧問 村川 賢司 前田建設工業(株) 部長
- 顧問 前田 又兵衛 前田建設工業(株) 会長
- 顧問 山岡 建夫 JUKI(株) 会長

第31年度役員役割分担表

投稿論文審査	鈴木和 天坂
編集	永田 山田秀
広報	坂 鈴木和
事業	長田 大藤 兼子
研究開発	天坂 猪原
規定	竹下 光藤
会員サービス(資格審査)	松本 坂
選挙管理	高橋 飯塚
庶務	光藤 杉山
最優秀論文賞	飯塚 鈴木和
研究奨励賞	飯塚 鈴木和
品質技術賞	高橋 永田
品質管理推進功労賞	狩野
国際	飯塚 兼子
標準	福丸 永田
長期計画	狩野 高橋 飯塚
Web特別	兼子 渡辺
研究助成特別	澤田 仁科
QC相談室特別	猪原
学術会議関係	圓川 棟近
医療分野	飯田
社会科学分野	橋本
中部支部	太田 澤田 高見 杉山
関西支部	栗山 猪原 田部

委員長 副委員長

各種表彰

同総会において名誉会員に唐津一氏、松村嘉高氏が推薦され、第30年度最優秀論文賞1件、研究奨励賞1件、品質技術賞2件の授賞および表彰が行われた。

【最優秀論文賞】

『発展過程を考慮したTQMの評価・診断法に関する研究』

中司 慎太郎氏
(中央大学 理工学部(現) キヤノン(株))
中條 武志氏(中央大学 理工学部)

【研究奨励賞】

『不具合に関する設計知識の運用に関する研究 - ストレス・ストレングスモデルによる知識獲得 -』

田村 泰彦氏
(東京大学 大学院工学系研究科)

【品質技術賞】

『IDEF3を活用した業務プロセスのモデル化によるソフトウェア開発の効率的遂行と管理』

小高 哲也氏(パイオニア(株))

『コーディング・単体テスト工程における分割管理方式の提案』

木野 泰伸氏(日本アイ・ピー・エム(株))

2001年度デミング賞授賞式開催

本賞 藤田 史郎氏に、実施賞4社が受賞
デミング賞委員会は、2001年度のデミング賞および日経品質管理文献賞受賞者を発表し、授賞式が11月13日東京大手町経団連会館で挙行された。

デミング賞本賞

藤田 史郎氏 (株)NTTデータ 相談役
(当学会第27年度会長)

デミング賞実施賞

サンデンシステムエンジニアリング(株)
Sundaram Brake Linings Ltd.
Thai Acrylic Fibre Co.,Ltd.
Thai Carbon Black Public Co.,Ltd.

日経品質管理文献賞

「ISO14000環境マネジメント便覧」吉澤 正氏
編集委員長、茅 陽一氏 監修 「商品企画七つ道具実践シリーズ全3巻」神田範明氏 編著
大藤 正、岡本真一、今野 勤、長沢伸也、丸山一彦氏著 「人づくり・ものづくり・夢づくり」
前田又兵衛氏著 「品質を獲得する技術 タグチメソッドがもたらしたもの」宮川雅巳氏著

行 事 案 内

30周年記念ISOマネジメント・システム

公開講座 第5回

日 時：2001年12月4日(火)

18:00~20:00(質疑30分含)

会 場：(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル 地下1階講堂

テーマ：次の新しいISO14000は何か
吉田 敬史氏(三菱電機(株)環境保護推進部企画グループマネージャ)

公開講座 第6回

日 時：2002年1月17日(木)

18:00~20:00(質疑30分含)

会 場：(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル 地下1階講堂

テーマ：事後的なリスクマネジメント

による問題

森宮 康氏

(明治大学 商学部長)

参加費：5回、6回各々学会員3000円
非会員5000円

申込方法：氏名・所属・連絡先・参加希望回を明記の上FAXまたはE-mailにて、お申込ください。
FAX. 03-5378-1507
E-mail: apply@jsqc.org

第27回クオリティパブ(本部)

日 時：2002年1月15日(火)

18:00~20:00

会 場：(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階

テーマ：「進化するe-ラーニング」

- 教育スピードと教育機会の拡大で高競争力の基盤をつくるIT学習システム -

ゲスト：臼井 建彦氏(日本電気(株)NECソリューションズエラーニング事業部事業部長代理)

会 費：会員2000円 非会員2500円
準会員・学生一般1500円(含軽食)

申 込：本部事務局までお申込みください。

開催予告

第84回 シンポジウム(本部)

テーマ：「企業の社会的信頼性」

- 透明性とアカウンタビリティ - (仮題)

開催時期：2002年2月